# 晩秋の妙義山を訪ねる

＜須　藤　定　久＞

「妙義山」は広辞苑でも「群馬県南西部，甘楽（かんら）・碓氷（うすい）両郡にまたがる山．上毛（じょうもう）三山の一．奇岩怪石で名高い．標高1,104m.」と記述さている名山である（上毛三山の他の2つは赤城山・榛名山）．日本100名山には入っていないが，群馬県の郷土カルタ「上毛カルタ」にも「紅葉に生える妙義山」と読まれる景勝地である．信越自動車道で軽井沢へ向かうと，下仁田インターチェンジ（以下ICと略記）を過ぎるとまもなく左車窓に見え始め，松井田妙義ICから碓氷軽井沢ICまで続く岩山が妙義山である．

この山は中新世末期から鮮新世にかけての安山岩質火砕岩類からなっており，それが浸食を受けて奇岩怪石からなる岩峰群が形成されている．11月中旬，学会の見学会のついでに訪ねてみた．残念ながら紅葉のピークを過ぎてはいたが，岩峰が大きく見えたような気がする．岩峰の眺めを紹介してみよう．

写真1　妙義山東方12kmの台地上から見た妙義山．左から，金鶏山・金洞山・白雲山の3つの岩峰群からなっている．

写真2　白雲山は相馬岳（最高峰・1,104m・左）と白雲山（右）からなり，白雲山の麓に妙義神社がまつられている（図の①から）．

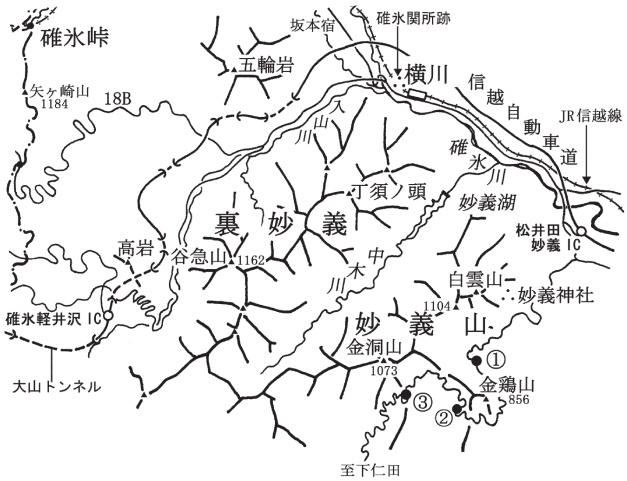
写真3　相馬岳の主岩峰（図の①から）.

写真4　白雲山の主岩峰（図の①から）.

写真5　南東側のある金鶏山(856m)．平野側から見える右端が金鶏山，左側の岩峰は筆頭岩(図の③から)．

写真6　金洞山の全景(図の②から)．

写真7　金洞山・中ノ岳駐車場脇の奇岩．中央岩峰上にハイカーの姿が見える(図の③から)．




**付図：妙義山付近の略図**

妙義山は関東平野の西にある特異な岩峰群からなる山．中新世から鮮新世にかけて形成された凝灰角礫岩が浸食されてできた．中木川の谷を挟んで南西−北東方向に延びる2列の岩峰列からなり，南東側の列が「妙義山」で北西側の列は「裏妙義」と呼ばれる．表妙義は白雲山・金鶏山・金洞山に3区分される．最高峰は白雲山に隣接する相馬岳(1,104m)．

裏妙義の主峰は谷急山(やきゅうやま)(1,162m)，ほかに烏帽子岩・丁須ノ頭が有名．裏妙義のさらに裏にも高岩(信越自動車道で東京に向かうときに，碓氷軽井沢ICを通過してすぐに高岩をトンネルでくぐる)・五輪岩などの岩峰がある．

妙義山へは，信越自動車道・松井田妙義インターチェンジから車で10分ほどで妙義神社前につく．ここから山麓に周遊道路があり，下仁田方面にぬけられる．紅葉の見頃は10月中旬から11月初旬で，このころの休日はドライブの車で混雑する．